

第2回 小学生の頃① 学校生活を拓いてくれたもの

(1) 自分で自由に読み書きできる文字「点字」

愛知県立名古屋盲学校の小学部に入学したのは、1963(昭和38)年4月のことです。

盲学校に入学し、保育園のときにあったようないじめがなくなり、安心して生活することができました。また、自分の居場所ができたような気持ちもありました。とりわけ、点字を学びはじめ、自分で自由に読み書きできる文字をもてたことはこの上ない喜びでしたね。

しかし、まだ6歳の子どものこと。月曜日の朝に6時前に家を出て、母親に送られ、寄宿舎に着くと、いつも寂しくて泣いていました。そしてなぜか金曜日になると決まって熱が出ました。当時、私の自宅にはまだ電話がなく、お店をしている向かいの親戚に電話をしてもらい、迎えに来てもらっていました。何と60年も前から私はすでに「週休二日」だったのです!

小2の夏休みの前に流行性脳脊髄膜炎に罹りました。頭が割れるように痛く、40度以上の熱が出ました。盲学校の近くにある名古屋東市民病院に入院しました。入院時に打たれた腰椎穿刺の注射は痛くなかったのですが、経過を診るために1週間後に打たれた同じ注射は痛くて我慢できないほどでした。今から考えると、発熱や頭痛のために、注射の痛さも感じないぐらいになっていたんでしょね。

この入院中によほど強い抗生物質が使われたのでしょうか、体の中にいたばい菌がすっかりいなくなったような感じで、2学期からは週末に発熱することもなくなりました。

(2) これ腐っているんじゃない!?

幼いころの私は、食べ物についても好き嫌いがたくさんありました。「嫌い」というより、食べたことがなく「聞いたこともないものは食べられない」と思い込んでいました。「豚肉のソテー」「たくあん」と言われても何のことかわかりません。後になって食べてみたら、「ソテー」は「炒めたり焼いたりしたもの」「沢庵は大根の漬け物」ということがわかりました。そんな調子で、ほとんど食べられないものばかりでした。しかし、小2の秋からは「好き嫌いをしていたら丈夫な体にならない」と、何とか食べてみることにしました。そうしたら、いろいろとおいしいものがあることを知りました。盲学校での食事は、私の食生活を大いに豊かにしてくれました。

食べてビックリしたものが二つあります。チーズと納豆です。この二つは「これ腐っているんじゃない!？」と思いました。これも徐々に食べられるようになり、大人になってからは、好物になったんですが。

筆者：志水克典(岡山ライトハウス点字出版所 所長、元岡山県立岡山盲学校教頭)